

開会式の廣場には複数店が開かれ、学生たちは楽しそうに料理やお茶を振る舞っていました。



バスケットボール部「ちよらん焼き」



バトミントン部「クレープ」



学生会「フランクフルト」



軽音部



茶道部

皆さん本当に手際が良いですね。日頃我々がチームワークでてきぱきとお客様に対応していました。

また、鹿児島さんによる王子太鼓の演奏も行われました。小さな子ども達も参加していましたが、心と身体に響き渡る力強い演奏でした。



鹿児島「王子太鼓」

構内では各クラブの活動紹介を兼ねた交流フースが設けられました。
また、教員も参加しながら、地域の方々の健康の向上やリラクゼーション目的としたフースや、相談支援、看護体験といった看護学部の特色を活かしたコーナーが催されました。



国際看護研究会NITW「Cafe」



学生会「ナースの学び舎」



「看護体験コーナー」



ライフサポートチーム「急救救命処置の講習」



Happy Smile「ありがとうを言葉にしよう」

日頃の学びやクラブ活動の体験を発揮しながら、来場者の方々と触れ合う姿はとても輝いていました。



「リラクゼーションマッサージ」



「Sound Healing Room」

昨年もそうでしたが、足浴体験やマッサージといったリラクゼーションを目的としたフースが大変盛況でした。
皆さん、施しを求めていらっしゃるのなあとしみじみ思います。

また、今回、本学と交換のあるオーストラリアのカーティン大学の看護学部のAmber Glaskin先生と本学の大内幹雄先生が、
学生との交流のために埠まりに来られました。
先生の明るく楽しいオーストラリアの話に、学生もますます海外への関心が高まつたようでした。



Amber Glaskin先生

また、15時から、けやき会（同窓会）主催の講演会が開かれました。
今年度の講師は淀川キリスト教病院の名譽ホスピス長、大阪大学名譽教授であり、
現在は金城学院の学園長をなさっている柏木哲夫先生に「医療とユーモア」というテーマで講演して頂きました。



柏木哲夫先生

講演会に参加し、ユーモアは、自分とその出来事（疾患など）と距離をとることになり「（死期が迫っている、等）～にも関わらず笑う」ことができる、というお話を印象に残っています。特に医療の現場においては「～にも関わらず笑う」ということが患者さんにとって心地よさを感じることにつながるのではないかと思いました。

盛りだくさんの「摩まつり」となりましたが、今年も来場の方々、学生の皆さんたくさんの笑顔が溢れています。大学という場を通して、人と人との触れ合ふことはとても素晴らしいことだと思います。

今後も積極的に地域貢献を行いながら、人々にとって身近な大学であればと考えております。

来年も皆様のご来場をお待ちしております。